

आयुस् あーゆす

(発行) 京都文教大学・京都文教短期大学図書館
京都府宇治市槇島町千足80

**** 天安門事件の間 ****

京都文教大学・京都文教短期大学図書館長
総合社会学部 教授 (植民地主義・帝国主義) 遠藤 央

2020年に天安門事件に関する重要な日本語文献が二冊刊行された。NHK北京支局長などを歴任した加藤青延による『目撃 天安門事件－歴史的民主化運動の真相』(PHPエディターズグループ)と六四回顧録編集委員会(編)『天安門事件を目撃した日本人たち－「一九八九年六月四日」に何が起きたのか』(ミネルヴァ書房)である。どちらも極めて興味深い内容が満載である。さらに、後者の著者たちはすでに現役を引退している人々がかなり含まれており、見聞きしたことを気兼ねなく書ける年齢になっていることも特筆すべきだろう。

加藤の本は多岐にわたるテーマを扱っているが、ここでは最後の「真相10」の「戦車男」をとりあげたい。有名な映像であるが、疑問点をまとめると以下ようになる。

なぜ単独で戦車20両近くを止めることができたのかということ。そもそも戦車部隊は天安門広場を制圧した後に撤収する方向に移動していたので、止める必要はなかったこと。道路に出た後すぐに拘束されず、しばらくの間自由に行動できたこと。男の目線が先頭の戦車の潜望鏡の方向に常に向けられていたこと。右手のバッグを動かすと戦車が向かって右に動き、左手のバッグを動かすと左に動いたこと。数日後、共産党の宣伝担当者が「戦車が人をひかなかったことが重要だ」と著者に語ったこと、などなど。

つまり党の自作自演の可能性がある指摘しているのだ。ちなみに、つい最近もNHKはこの映像を流しているのだから、著者の主張を認めているわけではないらしい。

2冊目の本でもNHKの中林俊数が「17 戦車男(タンクマン)を盗れ」のなかで当時の撮影状況を説明している。「北京飯店の・・・一六階のベランダに、二人でいる時に、・・・一人の男が戦車に歩み寄った。「アッ、轢かれる」と思わず

私が声を上げたときには河瀬カメラマンがカメラを回していた。彼はあの男が当局者によって連れ去られるまでカメラを回し続けた。二人ともそれが後々まで話題になるカットだとは、そのときは思わなかった。それ以上に東長安街では実際に撃たれて死ぬ市民・学生らもっと大変な事態が立て続けに起きていたからである」。追記としての「深まる戦車男の謎」という文章の最後で加藤の主張をとりあげ、「はたして真相は如何? 謎は一層深まるばかりだ」と結んでいる。

筆者がとくに興味をひかれたのは当時いすゞ自動車北京事務所長であった渡辺真澄による「13 燃えた軍用車の謎」である。「最初に現れたのが歩兵部隊だったが、彼らは銃を持たない丸腰だった。・・・しかし、よく観察して見ると、市民の幾重もの列の後ろのほうから石礮が投げられ、・・・歩兵たちも投石に抵抗する様子を見せることなく・・・市内のあちこちで同じような光景が繰り広げられていたことを後で知った。私たち外国人は、軍が際限なく忍耐し続けているという筋書きの中に組み込まれていたのかもしれない。・・・私は「ああ、これで天安門広場一掃の大義名分が整ってきたな」と感じたのだった」。また、車の専門家らしく、「軍用車両がいつも簡単に火を吹き、燃え上がった。・・・素人に簡単に燃やされてしまう軍用車両がどこの国にあるだろうか・・・しかも火を放たれ燃え尽きた状態で、車の背骨ともいえるフレームが溶け落ちていた。溶けてしまうような脆弱なフレームを持つ軍用トラックなど聞いたことがない。どう考えても騒乱状態に近づいた市内の急速な変化にはどこか不自然さがあるように思えるのだった」とその文章を締めくくっている。

これらを読むと、まさに謎は深まるばかりなのである。

(えんどろ ひさし)

本学は、2012年4月より宇治市図書館と連携協力を開始し、今年で10年目となりました。
今回、記念に宇治市中央図書館の安田館長からみなさんへメッセージをいただきました。



宇治市図書館を利用してみませんか。



宇治市中央図書館館長 安田 美樹

1 図書館の相互連携協力について

京都文教大学・京都文教短期大学図書館と宇治市図書館が相互連携協力の覚書を締結していることをご存じですか。

地域の学術、教育、文化の発展と図書館サービスの向上を目的とする両館の連携協力は、今年が開始から10年目にあたります。

この連携協力によって実施している取組みは次の3つとなっています。

- (1)宇治市図書館の貸出券の提示による大学・短期大学図書館への入館（18歳以上の市民等）
- (2)両図書館の図書の相互貸借
- (3)宇治市図書館の予約図書配本所を大学図書館内に設置

今回は(3)の予約図書配本所についてご紹介します。予約図書配本サービスは、インターネット等から予約した図書を配本所で借りることが出来るサービスです。毎週1回、当館から配本所に予約本を搬送しますので、皆さんは、読みたい本を予約すると、大学図書館で受取り、返却することができます。宇治市図書館には、幅広い分野の蔵書が約32万6千冊あります。図書館ホームページから蔵書検索ができますので、どのような本があるのか、一度ご覧いただければと思います。

このサービスを利用するには宇治市図書館の貸出券が必要です。事前にお申し込みください。

今年の2月から大学図書館の入口横に宇治市の返却ポストを設置していますが、このポストは宇治市図書館で直接借りた本を返却するためのものです。配本所で借りた本は返却できませんのでご注意ください。

2 宇治市図書館の企画事業について

宇治市図書館では、図書の閲覧や貸出しのほか、図書館に親しみ、読書の楽しさを知ることができるイベントを数多く実施しています。

子ども向けには、絵本や紙芝居のおはなし会、科学実験教室、読書感想文の書き方教室、外国人講師による外国語のお話し会、マジックショー、人形劇、ぬいぐるみのお泊り会、脱出ゲーム等を行っています。また、成人向けには、夜の図書館見学、国会図書館見学ツアー、朗読会、歴史講演会、工作教室、手話教室、ヨガ教室、高齢者施設

への出張おはなし会等を行っています。

貴学との連携協力では、ぶんきょうにこにこルームにおいて図書館職員が出張おはなし会を行っています。また、読書感想文の書き方教室では橋本京子先生に講師をお願いし、大変お世話になりました。過去には、大学図書館の見学バスツアーも実施しています。

今後は、学生の皆さんと一緒に企画事業を行いたいと考えています。興味のある方は、お気軽に図書館までご連絡ください。

3 電子図書館サービスについて

宇治市図書館では、新型コロナウイルス感染防止対策のひとつとして、来館せずに利用できる電子図書館サービスを3月24日にスタートします。（この原稿を書いている時点では予定です。）

スマートフォンやタブレットから電子図書館にアクセスすれば、24時間どこでも電子書籍を読むことができます。借りた本は、貸出期間が過ぎると自動的に返却されます。

文学やエッセイ、ビジネス書や自己啓発本、料理、健康、旅行等の実用書、絵本等の児童書のほか、日本文学の英訳版、音声読み上げ機能のある英文の絵本やコミックなど約5千点の電子書籍を揃える予定です。

府内の公立図書館で初めての電子図書館サービスです。どうぞご利用ください。

なお、電子図書館サービスを利用するには、貸出券とは別に、電子図書館のアカウントの申し込みをしてください。

4 最後に

図書館の連携開始から10年を契機に、今後は、さらに連携を深めていきたいと考えています。

まずは、連携協力の方向性について双方の図書館で意見交換を行い、学生の皆さんや地域住民の方々の要望やアイデアをお聞きして、新たな取り組みを行いたいと思います。

そして、この連携協力が、地域の教育や文化の発展、図書館サービスの向上の一助となるよう努めてまいりますので、どうぞ、よろしく願います。

(やすだ みき)



図書館で過ごした「ゆったりとしたひとりの時間」



幼児教育学科 准教授（教育学） 齋藤尚志

2020年4月1日、本学着任。図書館が3つもある本学に、私は淡い期待をもっていった。大学院生時代は、図書館書庫や古い本の匂いが好きだった。時間があれば、書庫に籠り、吉田松陰や広瀬淡窓などの日記や、体罰や児童虐待、公害などの社会問題に関するルポルタージュものを読んでいった。気に入った本とその近辺にある気になった本を順に手に取り、物思いにふけた。図書館のおかげで、私は、「ゆったりとしたひとりの時間」を過ごすことができた。本学着任後は、そのような時間をまた図書館で過ごすことができるのではないかと少しだけ期待していた。

しかし、その期待は見事にお預けとなった。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて発出された緊急事態宣言により、着任前に入学式が中止となった。そしてなによりもコロナ禍のもと、大学の学びがオンライン授業になり、その準備である講義内容の精選や動画作成、課題への応答などに追われた。

世の中では、コロナ禍で小中学校などが一斉休業になったのをきっかけに、学校のICT化の遅れが指摘された。そして学校の学びを停めてはならぬと、コロナ禍以前からすでに議論が始まっていたGIGAスクール構想の実現が一気に加速した。子どもひとりに1台の端末環境を用意し、「誰一人取り残すことのない、個別最適化された学び」をめざすことになった。

オンライン授業や研究会などで恩恵を受けたことをふり返ると、学校においてICT化が進められることのメリットを否定することはできない。でもこれからは、一人で（個別に）ちゃんと（最適に）学んでいかなければならず、学びを急かされているようである。私がかつて味わった図書館での「ゆったりとしたひとりの時間」とは何かが違う。

ICTを活用した教育では、視覚と聴覚による学びが中心となり、味覚、触覚、嗅覚を働かせる学びは不要となる。たとえば、赤ちゃんは、手あたり次第にいろんなものを口に含んでなめる。おもちゃをなめ、そのおもちゃが入っているかごをな

め、自分や自分を抱っこしてくれる人の手指をなめる。なめることにより、なめている感覚となめられている感覚の違いを感受する。私たちにとって、なめるという行為は自他の区別をおこない、みずからが生きる世界を理解するための大切な営みである。

ICT化は、みずからが生きる世界を理解するにあたり、味覚、触覚、嗅覚（対象から出たにおいを構成する粒子を受けとる広義の接触）という接触を必要とせず、視覚と聴覚という非接触の営みだけで学びを実現させようとする。なめるという行為をとおして生きる世界を理解してきた人間のありようとは、ずいぶん異なっている。

今からおよそ10年前のことである。東日本大震災の直後に現地に入った友人がいた。戻ってきた彼は、「津波による被害は甚大だった。ガレキの撤去作業は、テレビで映し出されたとおりで身心ともにつらかった。だけど、テレビではおいはわからないよなあ」と教えてくれた。

この瞬間、視覚と聴覚に頼って被災地の様子を理解しようとしていた自分の至らなさに気づかされた。改めて想像すると、潮風によって運ばれる腐敗臭や土埃のざらつきなどを感じたような気がして、ゾクッとしたのを覚えている。この時に感じることできたにおいや感触は、被災地に赴いた友人が感じたそれらとは比較にならない。それでもそれを感じることができたのは、日記やルポルタージュに書かれた文字を読み取り、自分なりに想像してきた図書館で過ごした「ゆったりとしたひとりの時間」があったからだと思う。

学校におけるICT化が拙速に進められることにより、全身で他者の苦しみや哀しみを感受することがむずかしくなるのではないか。また視覚と聴覚に頼る学びは、目や耳の不自由な子どもの学びに支障を生じさせないであろうか。コロナ禍での着任一年が過ぎようとする中で、かつて図書館で過ごした「ゆったりとしたひとりの時間」の大切さを改めて実感するとともに、これからの子どもの育ちや学びについて注視していきたいと思う。

（さいとう ひさし）

🌸🌸🌸 「読書のすゝめ」 🌸🌸🌸

— 文学作品の読書を通して、想像力&創造力を養う —

元こども教育学部 教授（生活科、総合的な学習、特別支援教育） 寺田博幸

10代の頃、諸先生から「この頃の若者は、あまり読書をしなくなった。しっかりと本を読み、心を耕しなさい。」と苦言を聞かされたものである。読んでいたつもりであっても、それは斜め読みでしかなかったと反省するところしかりである。

しかし、今、その小生が、同じことを学生諸君に言っている。さぞかし、年老いた爺やのいやみと思っっているであろう。小中学生の頃は、本屋の棚から漫画を見つけ、立ち読みに耽ったものである。読んでいるうちに、その世界に入り込み、主人公になったつもりでその日を過ごしたこともある。高校時代は、大学受験のため、専ら参考書等が主となって、今は見かけなくなりつつある古本屋で受験用の参考書を読みあさったりもした。新しい参考書などは購入する費用もなく、古本屋が馴染みであった。その店主は、一見、言葉少なく頑固そうに見えたが、交渉次第で値札より安く購入でき、小生にはありがたい本屋であった。手にした参考書は少々手垢で汚れもあったが、前の持ち主の熱心な勉強ぶりが伝わり、小生を奮い立たせてくれたりもした。特に、下線のある行を目にすると、その持ち主の人物像なども想像しながら、店主に売主のことを尋ねることもあった。古びた参考書であっても、新鮮さを感じ、下線の行に頷きもし、納得したことも度々である。本棚に並ぶ古書を手にして立ち読みをしても注意もされることのない時間に満足し、勉強の合間に、歴史文学の本を読むこともあった。何も言わず読ませてくれた主人に唯々感謝である。読み耽る歴史文学の本の続きを読むために頁を折ったりもしたことがあったが、店主には本当に申し訳ないことをしたと後悔している。手垢などの汚れはさほど気にすることもなく立ち読みに耽り、数時間を過ごすこともあったが、言葉少ない優しい店主について甘えてしまうのである。恥ずかしいことだが、日本の文学に強く関心をもったのは、受験から解放された時からである。文学者や書名は言えても内容を知らない自分が情けなくなり、自分を奮い立たせたことがきっかけとなった。貧しい学生にとって甘えさせてくれる古本屋は天国であり、店

主は仏であった。とはいえ、購入する費用もない小生には、立ち読みで過ごすことになる。主人は、口にこそしなかったが、きっと迷惑に思ったに違いない。貧しい学生には救いの店だが、そのような学生が多いと店も続くはずがない。残念だが、卒業後本屋を訪ねると、扉に店じまいの張り紙がしてあり廃業していた。お世話になったが、感謝の言葉を伝えることが出来なかったことが心残りである。

さて、歴史文学には、その作品に吸い込む力を感じる。時には登場人物と自分を重ね主人公になっている自分に出会うこともある。言葉で表せない不思議な世界である。何事も中途半端で終わる小生であるが、歴史文学の不思議な力である。その力は、書にとどまらず、作者が生きていた時代の背景に思いを引き寄せるところとなり、作者が描いた道をたどってみたこともある。

森鷗外の作品は、近代化が進まない日本の社会の状況と個人の生き方との葛藤を描く作品を目にすることが多い。鷗外が当時主流の自然主義全盛に同調していないことに疑問をもち、彼の生い立ちに迫ってみようと津和野を訪ねたこともあった。

島崎藤村の「夜明け前」を読み耽っているうちに、書を手にししながら一方の手には歴史街道を記した書を携え、木曾路の入り口となる中山道の馬籠宿を訪ねることもあった。書に描かれた時代の背景に納得させたい自分がいるのである。

夏目漱石の作品は、歯切れのよい近代の口語調の文体で読みやすく風刺に心を引かれていく。中でも、晩年の頃に描いた「明暗」に心が揺さぶられる。残念にも夭逝のため未完であるが、漱石が理想の境地とした「則天去私」の世界の続きは、小生が漱石を想像しながら自分なりに完成させている。行き着く先は、本学の理念の一つである「たえまなき自省自戒（煩惱無数誓願断）」である。残念ながら、小生は未だ辿り着けずに迷走と立ち往生の毎日であるが、学生諸君には、主人を気にせず座って読むことのできる図書館がある。一緒に「自分探し」をしようではないか。

（てらだ ひろゆき）

〜♡〜♡♡♥ 本が映す世界 ♡〜♡〜♡

総合社会学部 総合社会学科3年生 岡野祥大

私には影響を受けた本がいくつもある。最近ではライトノベルを読むことが多いが、小・中学校とハードカバーの小説や文庫小説ばかり読んでいた。休日は大抵地元の図書館に行き、5冊以上は借りていた。最近ではあまりないが、書店や図書館に一度入れば最低でも4時間はそこにいた記憶がある。こうして振り返っても改めて何をしているのかと自分に呆れ苦笑してしまう。影響を受けた本がいくつもあると言ったが、基本あるジャンル以外は何でも読むので、影響を受けた本、好きな本を語るとジャンル別になってしまう。一つに決められないのが私の悪いところだ。しかしそんな私でも苦手な本はある。なにも自己啓発本とかそういうのではない。ジャンルの問題だ。純恋愛の小説が私は苦手だ。本を読む際はその文章にある情景描写、人となりなどを頭の中で一つの世界を作って読むのが私の読み方だ。だが純恋愛は現実味がないように感じて苦手だ。それなら、ファンタジーものやミステリーも現実味がないのではと思うだろう。ああいったジャンルはテーマがそうであるだけで登場人物の心情などはかなり現実感がある。私の読む本で一番読書率の低いものが恋愛ものだ。しかしそんな私でも唯一気にいった恋愛ジャンルの小説がある。それは「この終末、僕らは100日だけの恋をする」という本だ。恋愛小説が苦手な私でも読める儂くも美しい物語だった。この本があったから、この本に出会えたから、恋愛小説への苦手意識が徐々に薄れていった。今思えばこの本が自分の読書の人生を変えたであろう一冊なのかもしれない。純恋愛ではないがそれなりに恋愛ジャンルの小説なので、目についたときに即刻購入しようと思ったのは初めてだと思う。

私はジャンル別にお気に入りの作家が多くいる。例えば、ミステリーなら神永学、斜線堂有紀という風に九岡望、峰守ひろかず、木崎ちあきとお気に入りの作家が多くいる。自慢ではないが、私は本を購入するにあたって失敗や間違いをした

ことがない。そのせいか全く読めてない本が多々ある。どこかで解消しなければならない。ちなみに誰かに「おすすめの本は？」と聞かれれば、好き嫌いが無い限り「神様の御用人」を紹介している。というより、その本がある文庫の「メディアワークス文庫」を強く推すだろう。メディアワークス文庫はそんなに堅いものではない物語ばかりで、楽しい物語、本が多いから誰でも読みやすい。難しいというものでもないから私はおすすめする。恋愛小説で紹介した「この終末、僕らは100日だけの恋をする」という本もメディアワークス文庫だ。この文庫は現実と空想の両方が体感できると私は感じた。私は本を読むこと＝発想・想像するということであると思っているから現実感がある中で、空想することは個人的に面白いものだ。「好きを作る」というコンセプトにしっかりと合っている。だからこそ私はメディアワークス文庫の本を勧めたい。きっと自分の好きな本が見つかるだろう。

実は、私も一つ物語を作ったことがある。それが意外にも楽しかったので、違う作品を作っている最中だが。作った物語の内容はいたってシンプルなファンタジーものである。書いていると内容が徐々に重くなってしまっているのが悪いところで、少しずつ、軽くラフな感じも取り入れなければ重い話が出来上がってしまう。そのあたり私にとってはかなりデリケートな調整だったりする。まあ、それが楽しくて、もう一本書こうという気になるのがいいところだ。本に触れることで、また違った本への触れ方が可能となると私は感じた。

本とは一つの世界そのものだと私は思っている。その世界に触れることがどれほど素敵なことだろうか。私は、本を読む、書くという二つの触れ方をしたおかげで、読むだけでは分からない本の魅力を知った。皆も今まで読んだことがない本、物語を見つけ、未知の本の世界に足を踏み出してはどうだろうか。

(おかの しょうた)

✿✿✿ 私のすすめる3冊（私の推薦図書） ✿✿✿

総合社会学部 講師（企業の海外活動、移民・移住研究、グローバル化、国際開発学）

カラヴァシレヴ・ヤニ

◎ 「ワイルド・スワン」 〈上巻〉〈下巻〉

ユン・チアン(著)、土屋京子(訳) / 講談社 1993

中国の清朝末期から毛沢東の死までの筆者一族の歴史をたどった一冊です。教科書で書かれたものとは違った観点から、中国人からの目線で語られる20世紀の中国の複雑な歴史を簡単に知ることができます。軍閥、国民党、日本軍、そして中国共産党へとめまぐるしく支配者が変化する中で、変わらないのは支配者達の横暴、特権、そしてそれに群がる弱い人々です。そんな時代にあっても真実を求めて自分を貫き続け、人としての優しさを忘れない人もいます。この本を読むことで、忘れてはならない普遍的な価値観が皆さんの心に届くことと思います。

◎ 「銃・病原菌・鉄：一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎」〈上巻〉〈下巻〉

ジャレド・ダイヤモンド(著)、倉骨彰(訳) / 草思社 2000

本書は、最終氷河期が終わった時点では、各大陸で似たような狩猟採集生活をしていた人類が、どのように差異が生まれ、その格差が広がっていったのかを明らかにしてくれます。この本を読むことで、日本以外の世界の歴史と地理の知識が増え、多くの偏見をもって眺めている事を痛感させられるかもしれません。つまり、本書は自分の視野を広げる機会を与えるのに加えて、民族主義や差別、多文化理解といった話題がよりデリケートな問題になってきている現在、この本が多くの人に読まれてほしいと思います。

◎ 「予想どおりに不合理－行動経済学が明かす『あなたがそれを選ぶわけ』」

ダン・アリエリー(著)、熊谷淳子(訳) / 早川書房 2008

行動経済学の入門書としては良い一冊です。著者自身の実験結果が要領よくまとめられており、現実社会では伝統的経済学では説明できない事象が数限りなく生起することを、数式を全く使わずに非常に分かりやすく説明してくれます。行動経済学は、生活している中で感じていることを学問的に裏付けているので、興味を持ちやすい経済学のジャンルだと思います。経済・経営コースの皆さんに特におすすめの一冊です。

(カラヴァシレヴ・ヤニ)